

## 令和6年度 柴島中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

### 1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。  
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

### 1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	43	56	61	1.6	6.8
	大阪市	—	56	51	4.1	12.5
4月18日	全国	—	58.1	52.5	3.9	11.3

### 2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	42	70.3	47.9	52.3	50.1	60.1	3.7	4.5	13.4	5.5	5.2
	大阪市	—	65.4	50.2	48.8	53.1	54.0	4.9	4.7	14.3	4.3	6.5
9月3日	大阪府	—	65.2	50.4	49.1	52.4	53.6	5.3	5.0	14.8	5.0	6.9

※ 3年生の理科はB問題を選択

## 令和6年度 柴島中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

### 調査結果から

#### 【成果と課題】

##### ○令和6年度全国学力・学習状況調査

###### ・国語

<成果> 全国の平均正答率と比較して、「書くこと」「我が国の言語文化に関する事項」の領域において、上回る結果であった。

一方で、「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」の領域において、全国の平均正答率を下回る結果であり、「話すこと・聞くこと」の領域において、全国の平均正答率と同様の結果であった。

<課題> この結果から、「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」の領域の学習に課題があることがわかった。

###### ・数学

<成果> 全国の平均正答率と比較して、全領域「A数と式」「B図形」「C関数」「データの活用」において上回っていた。特に、「A数と式」「B図形」は10ポイント以上上回っている。また、評価の観点の「知識・技能」「思考・判断・表現」においても、大幅に上回っていた。特に、校内のテスト等では「思考・判断・表現」は少し弱いと考えていたが、10ポイント以上上回っていた。これは生徒たちの「思考・判断・表現」の問題への意識が高まった結果の表れだと思われる。更に、問題形式別の「選択式」「短答式」「記述式」においては、特に「記述式」の正答率が全国を10ポイント以上上回っていた。

<課題> どの領域においても、全て全国を上回っているが、数学を極端に苦手とする生徒が1割以上いるので、その生徒たちへサポートがこれから特に必要である。

##### ○中学生チャレンジテスト(3年生)

<2年次チャレンジテストの結果(対府比)>

国語1. 03 社会1. 01 数学1. 12 理科1. 01 英語1. 11

<3年次チャレンジテストの結果(対府比)>

国語1. 08 社会0. 95 数学1. 07 理科0. 96 英語1. 12

経年比較から、2年次は5教科で府を上回っていたが、3年次は3教科で府を上回った。

・各教科の領域・観点・問題別の分布では、平均点が府とほぼ同じであったが、社会の歴史的分野、理科の生命、地球の領域で府より下回った。

#### 【今後に向けて】

・国語では、現在、少人数授業を中心に授業展開している。しかし、これからは習熟度別授業を実施して、個に応じた授業展開をしていく必要がある。また、現在も実施しているが、授業内だけでは理解不十分な生徒に対しては、放課後の補習等も引き続き実施していくと考えている。

・数学では、特に「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」の領域の学習に重点を置いていきたい。